

# ウッディチキン / 名古屋例会

## 『 例会レポート 33 』

日 程	:	2008年5月14日(水)
会 場	:	名古屋国際ホテル 名古屋市中区錦3丁目23-3 (TEL 052-961-3111)
参加者数	:	講習会 = 300名
講演会内容	:	PM8:30~10:25 ・伊藤豊代表「ウッディチキンの活動について」 ・芳村思風先生講演 感性論哲学の創始者が語る！ 「意思の力・愛の実力」
親睦会	:	PM10:40~11:55 出席者数90名



レポート作成



ウッディチキン総事務局  
谷口 隆



<http://woodychicken.com> [info@woodychicken.com](mailto:info@woodychicken.com)



< 開会挨拶 >

司会進行

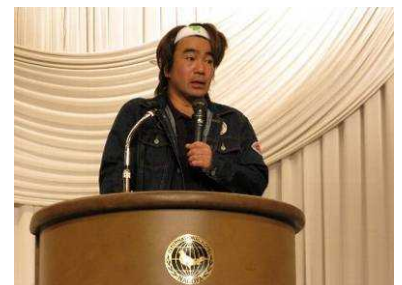
- ・ ZIGSO増田氏より開会宣言。
- ・ 本日の進行説明。
- ・ 伊藤代表紹介



< ウッディチキン伊藤豊代表 >  
< ウッディチキンの活動について >

挨拶

- ・ 4月29日、東京新橋ヤクルトホールにてウッディチキンと読書普及協会・ヒューマンフォーラムの合同イベントを実施しました。
- ・ そのときの映像をご覧ください。・・・スクリーンにて映像映写。
- ・ 全国で40拠点あるNPO法人読書普及協会の清水氏と知り合って、お互いの団体のために協力して何かしようということになり、「未来をきりひらくために」という内容で合同の講演会を開催しました。
- ・ このイベントは、10年間続けます。
- ・ 4月から集客して300名の方に来て頂く事ができました。
- ・ 約3分の1が美容師さん、3分の2が異業種、個人の方の方でした。
- ・ 2次会も50名くらいが参加し、交流を深めることができました。
- ・ 今後のビジョンとしては、もっと様々な人と交流して、お互いに心を磨いていきたいと思っています。
- ・ また、アジアチャイルドサポートの池間氏を支援していますが、池間さんからメールが来ました。その内容を紹介します。
- ・ 「ミャンマーでの震災で大変です。その中で助かっているのが、ウッディチキンの方々が建設してくれた井戸です。この井戸は、災害にも耐えられるように造っているので、今回のサイクロンにも耐えて、きれいな水が出ています。そのお陰で村の人々が行列して待っています。本当にありがとうございます」
- ・ 昨年の暮までにウッディの支援で53本の井戸が出来ています。
- ・ 1つの井戸で3000人の命が救われると聞きます。
- ・ 小さな寄付が実を結んでいます。
- ・ このような活動が大災害の際、多くの人を助けることになります。
- ・ 私たちの活動は大きく、「徳を集める」と「人助け」です。
- ・ 本日も中国四川地震災害とミャンマーサイクロン被害の2つの義援金を募っています。
- ・ どうぞ皆様からのご協力、よろしくお願い致します。



中部代表プリズム前田氏より本日の講師紹介



芳村思風(よしむら しふう) 昭和17年、奈良県御所市に生れる。現在は三重県鳥羽市に在住。学習院大学文学部哲学科を卒業。学習院大学大学院博士課程を中退して「思風庵哲学研究所」を設立する。感性論哲学の創始者。感性が生命の本質であり、人間の本質であり、宇宙の究極的実在であるとする。感性を原理とした哲学を世界で初めて体系化し、感性ブームを巻き起こした。昭和45年以来、仕事や人生において、如何に感性が大切であるかを説き続けている。全国に芳村思風を囲む会(思風塾)が結成されている。現在、思風庵哲学研究所所長、名城大学講師。

# < 芳村思風先生講演 >

## 感性論哲学の創始者が語る！ 「意思の力・愛の実力」

### 1. はじめに

- ・こんばんは。宜しく御願ひ致します。
- ・本日は美容業界の方々でお話できるということで、非常に楽しみにしていました。
- ・美容という美の探究をされている職業は、時代の変化の魁（さきがけ）となるものです。
- ・服装、髪型、化粧品は時代の流れを敏感に感じ取ることが出来ます。
- ・まさに、美を探究されているの方々、特に20～30代が多いのでお話をさせて頂くのが楽しみです。
- ・確実に20～30代の方達が、これから時代を背負っていかれます。
- ・だから講演をできることを喜んでます。

### 2. 美の追求は実践的哲学者

- ・美の追求は芸術の活動です。
- ・芸術は人間の外側に活動をするものです。
- ・しかし美容は人間そのものに美をクリエイティブし、引き出そうとしていく仕事です。
- ・感性論哲学の立場から言うと、美容は芸術よりも貢献できる職業だと考えられます。
- ・哲学的な原理から言うと、「形あるもの美を追求する」といえることが言えます。
- ・人間の中に美を追求することは実践的な哲学者だと認識しています。
- ・価値ある仕事をされている方々ですが、現実の職場ではお客様の関係、スタッフの人間関係、技術習得への課題など様々な問題を抱えています。
- ・それをどう乗り越えて、生きていけるかについてお話していきたいと思えます。

### 3. 哲学の存在・存続理由

- ・哲学とは何故出てきたのか？ 哲学は何故なくなるのか？
- ・それは人間には「もっと幸せになりたい！」という欲求が根底にあるからです。
- ・学問には科学と哲学の2つしかありません。
- ・哲学とは夢や希望を探求していく学問です。
- ・人間の理性という能力は『もっと良く知りたい』『もっと幸せになりたい』と2つがあります。
- ・『もっと良く知りたい』 この認識力が科学になりました
- ・『もっと幸せになりたい』 この幸福欲を根底に哲学が生まれました。

### 4. 命の欲求

- ・幸せを追求するためには「命の欲求」を満たすことです。
- ・命の欲求を満たさないと幸福とは言えません。
- ・「命の欲求」とは2つあります。
- ・「種族保存」「自己保存」です。これは全生命が持っています。
- ・自己保存の欲求から「意思」が生まれ、種族保存からは「愛」が生まれます。
- ・人間の命の目的は意思と愛を持つことです。
- ・この生き方をする事で幸せに生きることが出来ます。
- ・意思を実現して自己完成すること、愛を追求して素晴らしい人間関係を構築することが素晴らしい生き方につながります。



### 5. 意思の強さ

- ・1番求められるのは「自分の想いを自分が納得できるまで成し遂げる」、それは意思の強さです。
- ・しかし今の時代、なかなか意志の強さを持ってません。
- ・自己実現をよくわからない人が多くいます。
- ・自分が何をしたいかわからない人も多いです。
- ・皆、人生に迷っています。
- ・しかしそれでは、本当の人生の幸せを勝ち取れません。
- ・まずは意思の強い人間になることです。
- ・そのためには意思の強い人間を知ることが必要です。
- ・これまでの人間界では我慢強い人が意志が強い人でした。

- ・けれども、我々が求める意思の強さは理屈抜きでなくてはなりません。
- ・理性的ではいけないのです。
- ・理屈抜きの強さは、「命から出る欲求」から生まれます。
- ・そのような人間になることです。
- ・意思とは目的を実現する力です。
- ・命から湧いてくるものがないと、人間は行動を止めてしまいます。
- ・命から湧いてこない、人間は無理をして、理性的に止める理由を考えてしまいます。
- ・命から湧いてくることで、燃えることが出来るのです。
- ・「俺の命から湧いてこないぞ！」そんな人も多いようです。
- ・「理性は本当の俺ではない、興味・関心・好奇心こそが本当の俺である、俺の本体とは「欲求」である、欲求のない人間は人生のない人間である、どうしたら理屈抜きに湧いてくるか？」と我々は考えなくてははいけません。

## 6. 感性について

- ・個性の原理は感性です。人間の本質とは理性ではなく、感性です
- ・感性は、神経がなくても感じるものです。
- ・単細胞生物でも感性はあります。感性を理解するなら神経は関係ありません。
- ・美しいと感じるとは生きていることです。
- ・人間化された感性を心とします。



## 7. 価値判断

- ・意味と価値を感じる、価値や素晴らしさを感じないと命に火はつきません。
- ・心とは何なのか？を考えなくてははいけません。
- ・だから今自分がやっている仕事の意味や価値を感じなくてははいけません。
- ・感じないと燃えないのです。
- ・残念ながら、学校教育は情報伝達で終わり、意味や価値を考えることが少ないです。
- ・だからほとんどの人が自分が持っている情報の意味や価値を感じ取れないのです。
- ・生きるとは何を捨てて、何を取るかです。決断することです。
- ・何が自分に必要か考える価値判断こそが哲学です。
- ・価値を考えることで、必ず欲求が湧いてきます。そうすることで、行動力が伴います。
- ・我々は何が必要か？もっと感じなくてははいけません。
- ・そうでなければ死んでいるようなものです。
- ・宗教的な道徳観で、これまでは欲を捨てることを教えられてきました。
- ・しかし神や仏には肉体がありません、だから欲求がないのです。
- ・人間には肉体があります。だから欲があるのです。
- ・欲を満たすような生き方が必要です。
- ・したいことがない人は幸せではありません。
- ・「欲求を実現する人生」を生き方の基本におく必要があります。
- ・しかし欲求だけでは野獣です。
- ・そのために理性と能力を使うことが大切です。
- ・人間的な生き方は欲求だけでなく、理性を手段にして素晴らしい生き方をすることです。
- ・皆様も自分の仕事の意義や素晴らしさや価値があるのかを考えておくことが必要です。
- ・その意味を感じることで、命を燃やしていくことが出来ます。
- ・そういう組織を作っていくことが重要です。



## 8. 問題・悩み

- ・問題・悩みを乗り越えるために意思の力が必要になります
- ・問題・悩みとは自分を発展させるために出てきているものと認識することです。
- ・犯罪・事故も社会を発展させるために出現していると認識します。
- ・問題・悩みとは何をすればよいか教えるために出てきているのです。
- ・成功した人間とは問題、悩みを解決してきた人です。
- ・そのように認識することが必要です。
- ・問題、悩みがない生き方は間違っています。
- ・人生とは問題を乗り越え続けることです。
- ・問題から逃げない、向かっていくことが大事です。



## 9. 夢・理想の力

- ・そのためにも意思の強さが必要です。
- ・夢さえあれば人間はどんな苦しみにも耐えられるのです。
- ・夢、理想という欲求は本当に自分自身の命を支えてくれる、根本原理です。

・だからこそ、我々は夢を持って、その夢を実現するために生きる意志の強さを持つことが大切です。

## 10 . 問題の取り組み姿勢

- ・問題・悩みがなくなることはないという絶望的に聞こえるかも知れませんが、問題がなくなることを願うことは人生からの逃げです。
- ・経営者は問題を逃げてはいけません。
- ・問題とは自分の進むべき方向を指し示す「灯台」と認識するべきです。
- ・問題から逃げること、悩みが無くなるよう願うことは結果として不幸になるのです。
- ・何故なら問題が無くなることはないからで、常にどこにでも問題はあるのです。
- ・経営的にいうと、今の会社はどこに問題があるか？ それを探すことが経営の理想の姿勢です。
- ・問題がないことを理想とすると、社員が問題を隠して、犯罪が起こる原因になります。
- ・問題が見えてないとは、現実が見えてないことです。
- ・問題を知ること、現実を知ることです。
- ・現実が見えていないのは、最も恐ろしい状態です。
- ・一緒に職場でも仲間がどういう問題を抱えているか知ってあげる、共感することが大切です。
- ・これからの組織は心の結びつきが大切なのです。
- ・これまでの組織は「仕事と役職」でつながっていました。
- ・これからは人間の関係の根本に心の結びつきを考えるべきです。
- ・お互いに心が通いあっていることが、組織の結びつきでは大変重要なことです。



## 11 . 愛の本質について

- ・組織の活力をつくるためには愛の問題です。
- ・ほとんどの人が人間関係で悩んでいます。
- ・何重にも重なった苦しみを持って生きていくのが現実です。
- ・どうすれば、我々は人間関係から出てくる問題から逃げないで、生きていけるでしょうか。
- ・そのためには愛の現状をつかむべきです。
- ・相手は自分と同じような考え方、価値観と一緒にないと愛せないのが現実です。
- ・それは自分しか愛せない愛、それは偽者の愛なのです。
- ・自分しか愛せない愛でどうやって子孫が残せましょうか。
- ・愛とは本来「種族欲求」から出てきたものです。オスがメス、メスがオスを愛するという行為です。
- ・では何故、偽善の愛になったのでしょうか？
- ・それは、近代教育のせいで愛すら理性化されてしまったのです。魂を抜かれてしまったのです。
- ・理性という能力は矛盾を排除し、画一的なものを追及します。だから自分しか愛せなくなるのです。
- ・どうすれば、愛の現実を、真実の愛を取り戻すことができるのか？
- ・現在、愛の重要性、価値を文化にすることが出来ていないのです。
- ・愛という精神は古代から現代まで成長発展していません。
- ・我々は愛を成長発展させていく必要があります。
- ・残念ながら愛は理性の奴隷にされているのです。
- ・理性は愛の力でしか乗り越えられないのです。
- ・考え方が違うと対立し、宗教が違うと戦争になる、ということがないように理性に負けない愛を発展させなくてはなりません。
- ・そのために愛を文化に発展させる必要があるのです。
- ・愛の本質を知ることが大切です。
- ・愛を現実における力に変えるには、愛を「能力」とすることです。
- ・しかし愛は「感情」だと捉えられています。
- ・愛を能力にすることで、理性を超える力としなくてはなりません。
- ・何故、愛は能力なのでしょう？
- ・愛は命を運ぶ力、命を満たす力だからです。
- ・命が究極に求めるのは愛です。
- ・そういう意味で愛は理性に勝るのです。
- ・理性は脳のみで働きますが、愛はそうではありません。
- ・愛を成長させるには、愛の真実を見極めることです。



## 12 . 愛を学問的に見る

- ・愛を空間、時間的という枠組みにあてはめて学問的にみると、愛は「人間と人間を結びつける力」、「社会を結びつける力」と証明できます。

- ・哲学は「ロジック (論理)」です。数字では取り扱うことが出来ません。
- ・理性は「セオリー」、数学的な世界、科学です。
- ・ロジックで考えると、愛は人間関係を作る力です、
- ・人間関係の全体は社会。社会とは様々な考え、立場があり、社会で生きることは自分とは違う考え、違う立場の人とと生きることです。
- ・そのなかで生きることを社会性と言います。
- ・社会の中で要求される社会性とは空間的における愛の力です。
- ・価値観の違う人と生きることができない人は、理性的ではあっても、人間的ではありません。
- ・血の通った温かな心で考えてあげることが、愛の力です。
- ・どうすればそれが出来るかと考えなくてはなりません。
- ・虐待、戦争は無くなりません。
- ・本当に平和を望むなら、考え、価値観、立場が違う人とどうしたら一緒にやっていけるのだろうかと考えます。
- ・そこに愛の成長する原理があります。
- ・同じ考え方の人と一緒にばかりいたら成長は出来ません。
- ・自分に無いものを学び取ることで自分にはないものを得て成長できるのです。
- ・自分と違う価値観を学ぶことにより、それが感謝につながります。
- ・それが愛の実践、愛の姿です。愛とは努力することです。
- ・相手のために努力する力がなくなれば、愛はなくなったということになります。
- ・努力なしでは愛は成長しないし、愛は消え去るのです。

### 13. 命の欲求

- ・考え方の違う原因は5つあります。
- ・「体験、経験、知識、解釈、出会い」が違うと考え方は変わります。
- ・相手の違うものを学びとって、自身を成長させていくことが愛の実践です。
- ・愛は苦しいものです。苦しいことを喜びと覚悟することが愛なのです。
- ・相手の喜びを幸せと感じることができる、それが愛です。
- ・相手のためにどの程度、自己犠牲できるか、そのことで相手をどれくらい好きかがわかります。
- ・空間的に考えたとき愛とは、他者と共に生きること、一緒にうまくやることを考えることであるといえます。
- ・理性を使いながら感性をどう実現するかが命の欲求です。
- ・皆と仲良くやっていきたい、という愛は人間の根本です。
- ・戦争は後天的意識です。
- ・人間は宇宙の摂理の力で生かされているから、我々は寝ていても死なないのです。
- ・母なる宇宙の願い・祈りは、皆と仲良くやっていってもらいたいという要求です。
- ・だから、我々は殺しあってはならないのです。



### 14. 「恋」と「愛」の違い

- ・もう一つ、愛における時間論的本質とは、愛の出発点は種族保存の欲求だということです。
- ・「恋」と「愛」はどう違うのでしょうか？
- ・「恋」という心情は種族保存を目的として結婚、生殖活動を進めるものです。
- ・「愛」とは、恋より鈍化された世界です。
- ・恋の心情がつのると、相手を好きになり、理想化し、盲目になり、一緒になりたいという思いが強くなるのです。
- ・そして、そのように相手を理想化してしまうことにより本当の姿は見えなくなり、種族を残すために、結婚させるために、恋は人間を盲目にしてしまうのです。
- ・しかし、結婚すると「恋しい」がなくなり、相手の本当の姿・悪いところが見えてくるようになってしまいます。
- ・恋をしているときは、人間は本当に愛しているわけではないのです。
- ・そういうことで、「結婚とは恋の墓場であり、愛の始まりである」といわれるのです。

### 15. 短所の活かし方

- ・人間が愛することは、不完全な人間を愛することです。
- ・人間とは不完全な存在です。それが真実です。
- ・長所は愛せて、短所を愛せないのは本当の愛ではありません。
- ・人間は長所、短所が半分ずつあるのです。
- ・そのことを知らないと、一人の人間を愛し抜く本当の美学とは言えません。
- ・短所を愛することこそ、本当の愛の文化、愛の実力といえるのです。
- ・短所をなくすと人間でなくなってしまう。
- ・短所をなくす努力をするのではなく、短所を知る努力をすることです。
- ・短所を知ることで謙虚になれるのです。
- ・人の短所を発見したら責めてはいけません。それを助けてあげなくてはならないのです。
- ・自分の短所も相手にさらけ出して助けてもらう。それが短所の活かし方です。



- ・短所を助けてもらって、相手を褒め称えるのです。
- ・助けることも大事ですが、助けてもらうことも大事です。助けてばかりいると相手は卑屈になるのです。
- ・助けてもらうのも、助けるという行為と同等の重みがあります。それが愛の姿です。
- ・愛とは許すことです。短所を許し、長所を誉めることです。
- ・短所を許すことが出来ない人間は、人を愛せない人間です。
- ・愛の能力を磨くことで、生きる能力が高まります。そうして世界を良くしていかなければいけないのです。
- ・人生とは、意志と愛のドラマなのです。
- ・ご清聴、ありがとうございました。

(原文提供：ミルボン山地氏、リライト&校正谷口)

## ありがとうございました。



～ 別途写真集もお楽しみ下さい。 ～

次回は 6月11日(水) 札幌例会でお会いしましょう。

例会に参加して、もっともっと、ソウルメイトの絆を深めていきましょう！